

かごしま

KOKUHO
KAGOSHIMA

国保

鹿児島県
国保連合会広報誌

2014
No.582

5

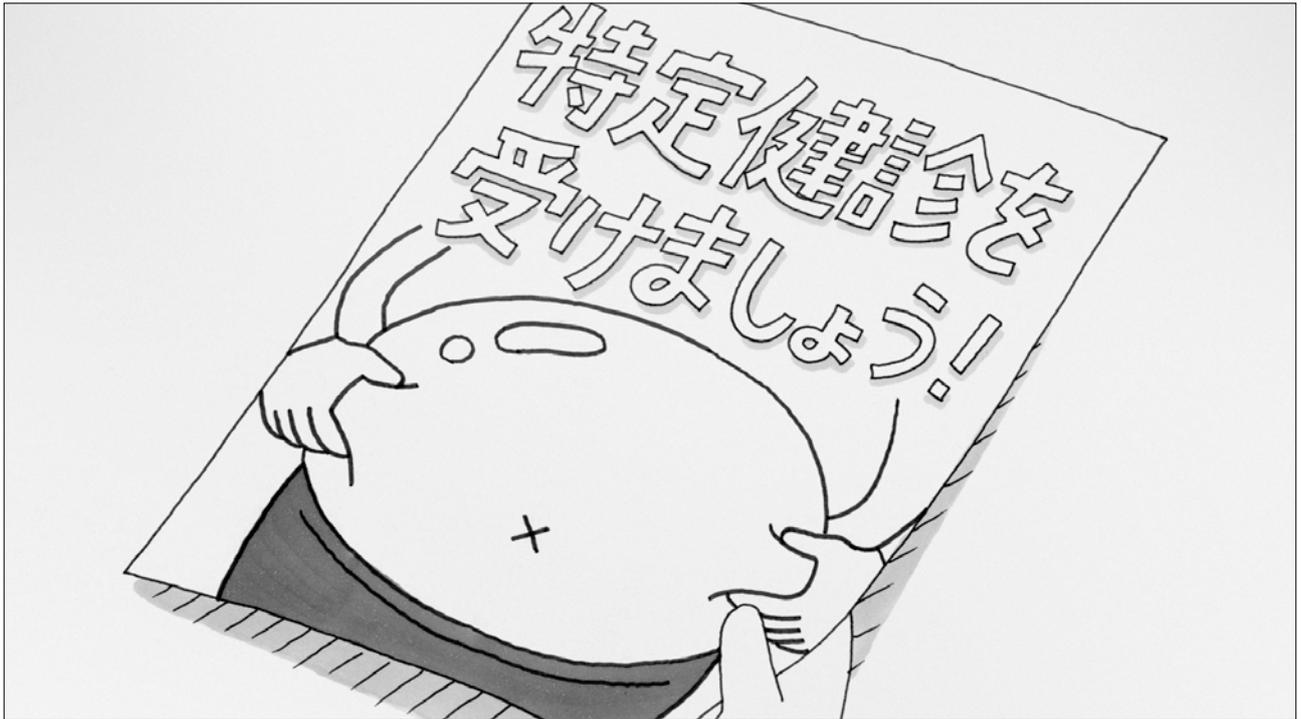


【特集】

平成25年度保険税(料)収納率向上研修会

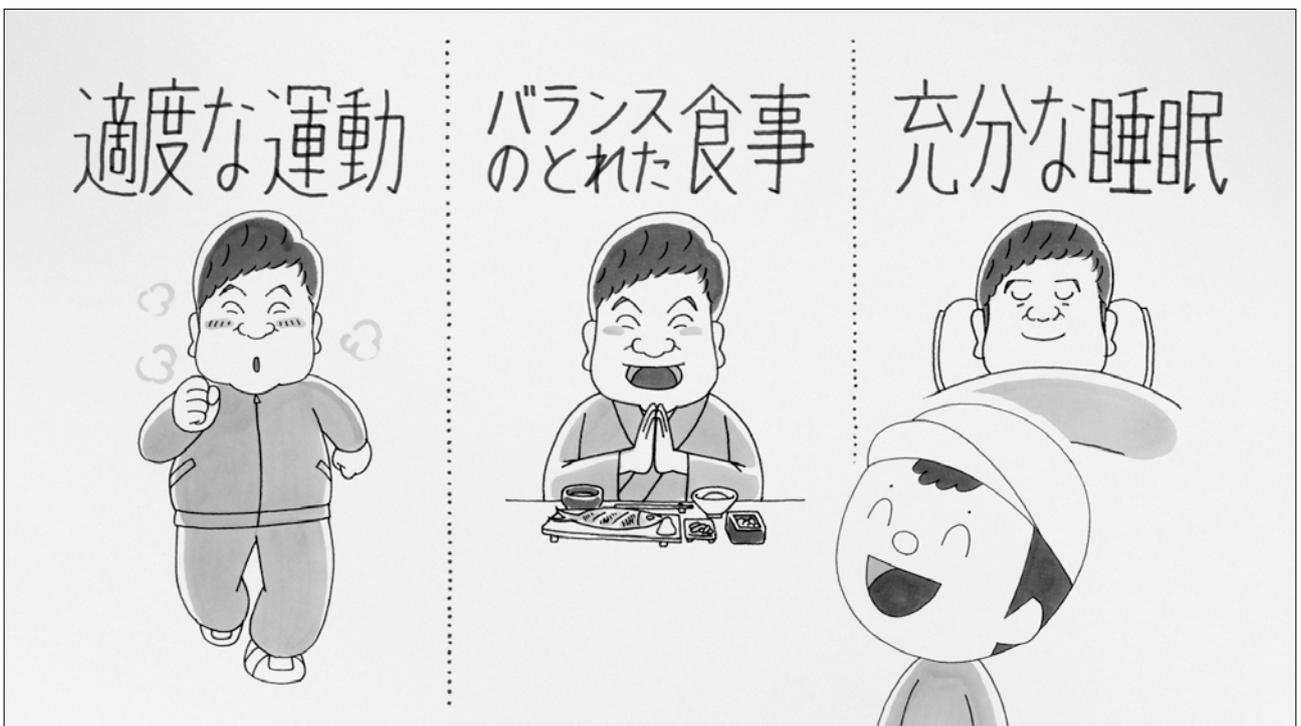
徴収業務に“法律どおり”果敢にチャレンジ

特定健診は、疾病の早期発見・早期治療につながります。



| | |
|---|---|
| 特 | 別 |
| 企 | 画 |

あなたには守るべき人生があります。



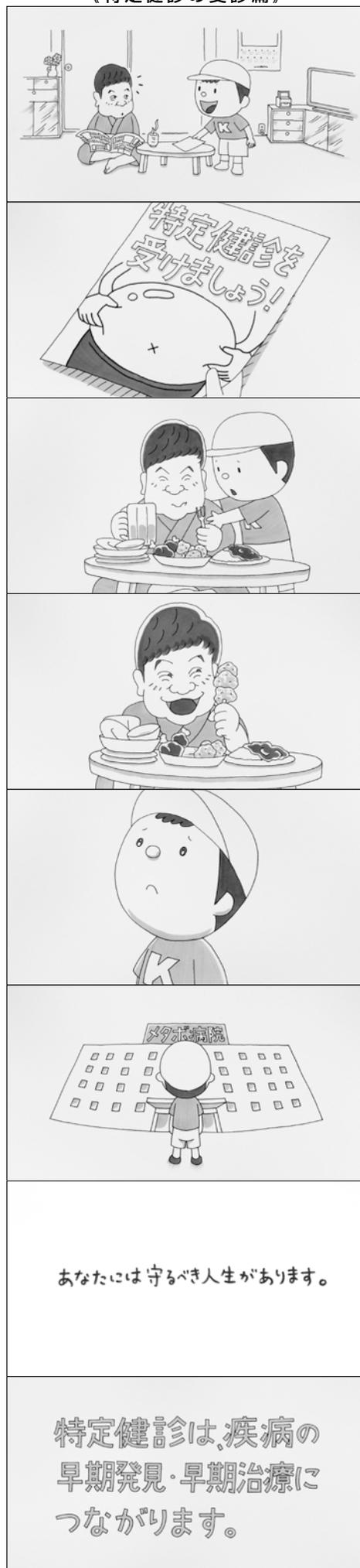
特定保健指導を受け生活習慣を見直しましょう。

特 別
企 画

STOP!メタボ!! GO!特定健診!!



落語家
桂 竹丸



あなたには守るべき人生があります。

特定健診は、疾病の
早期発見・早期治療に
つながります。

本会では、市町村や国保組合の協力のもと40歳から74歳の特定健診対象者へ向け、生活習慣病の発症・重症化予防に効果的なテレビ・ラジオCMを制作し、4月21日より民放4局をはじめ、MBCラジオで放映中。

「特定健診の受診・特定保健指導促進」の テレビ・ラジオCMを放映中

違った形で表現。

そして最後には、漫画のモデルとなった落語家の桂竹丸さんが実写となって登場。

けんこう坊やと共に「STOP!メタボ!!GO!特定健診!!」と呼び掛けています。



特定健診の受診・特定保健指導促進のためのパンフレット(表面)



受けよう!
特定健診!!



特定健診の受診・特定保健指導促進のためのパンフレット(裏面)



特定健診の受診・特定保健指導促進のためのパンフレット(中面)



特定健診の受診・特定保健指導促進のためのパンフレット(中面)

見直そう!
生活習慣!!



スタジオでの撮影風景。桂竹丸さんとけんこう坊やが揃って「STOP!メタボ!! GO!特定健診!!」を呼び掛けています。



徴収業務に “法律どおり” 果敢にチャレンジ

事例発表後、出席者から多くの質問を受ける徳之島町の米山主査(右)と垂水市の前田主事(左)

鹿児島市のマリパレスかこしまで平成25年度保険税(料)収納率向上研修会が行われた。研修会では、特定非営利活動法人ローカルガバメント・ネットワーク理事長の堀博晴氏の講演や平成25年度より保険者の国民健康保険財政基盤の安定化を図ることを目的に実施した、国民健康保険税(料)収納率向上アドバイザー派遣支援事業の事例発表が行われた。

国民健康保険税(料)収納率向上アドバイザー派遣支援事業

本会では、平成25年度から保険者の国民健康保険財政の健全な運営と発展に寄与するために収納率向上アドバイザーを設置し、保険者の収納率向上を支援することにより、保険者の国民健康保険財政基盤の安定化を図ることを目的に、国民健康保険税(料)収納率向上アドバイザー派遣支援事業を実施。

事業の実施にあたり、特定非営利活動法人ローカルガバメント・ネットワーク理事長の堀博晴氏に収納率向上アドバイザーを依頼。年間2回支援保険者に派遣し、国民健康保険税(料)滞納案件に関する具体的事務処理方法の指導・助言等を行うこととしている。

平成25年度は、垂水市・伊仙町・徳之島町・天城町の1市3町で派遣事業を実施し、平成25年度保険税(料)収納率向上研修会において、

垂水市・徳之島町が発表を行った。

国民健康保険事業の運営及び保険料負担の公平性の確保

平成26年2月26日、保険者から60人が出席し始まった研修会では、はじめに本会事業課の岩田正行課長が「国保財政が非常に厳しい中、収納率の向上、滞納額の削減は、国民健康保険事業の運営及び保険料負担の公平性の確保にとつて重要な課題であり、滞納が増えることは、結果的に多くの被保険者の負担増を強いることから、収納率の向上については重点的に取り組む必要がある」とあいさつした。

法律どおりやって いますか？

引き続き「法律どおりやるぞん!!」と題して、特定非営利活動法人ローカルガバメント・ネットワーク理事長の堀博晴氏が講演を行った。



法律どおりやれば徴収率は上がると講演するローカルガバメント・ネットワーク理事長の堀博晴氏

「皆さん法律どおりやっていますか？ やっていないでしょ」

この言葉から講演が始まった。

堀氏は、徴収率が低い原因を①集金をしてまわる世帯が多いこと②延滞金を徴収していないこと③小額分納が多いこと④未処分事案が多いことの4つを挙げた。そして、それぞれの理由について、80%以上の人は集金をしなくてもきちんと払っているのに集金をするから納期内納税の癖がついていない。延滞金を取らないから滞納者をつくっている。2年も3年もかかる小額分納を認めているから滞納額が増え、滞納の山を築いている。また、法律には滞納したら財産を「押さえろ」と書いてあるのにやっていな

いからだと述べた。

こうした中、効率良く徴収をすることを組織として考えていくことが重要で、やるべき仕事は小額分納の管理ではなく、滞納の山を減らし、滞納者の生活状態をきちんと把握することが徴収吏員の役目だと言う。

そして、生活状況確認書を書かせ家計の収入支出状況を確認し、その上できちんと期限を決めて分納誓約をとり、それが守られなければ差し押さえを行う約束をする。そして何より、分納誓約をする時に大事なことは、新規の滞納発生を止めさせることであり、新規発生を止め、その余力で古いほうから分納分を納入させることが大事だと言う。

堀氏は「本当に苦しい人からお金を取ってはいけない。まじめな人で、なけなしのお金を納付する人もいる。そういう人は停止処分にし、数年後に見直しをして生活状況確認書を書かせることで小額分納を解決していく」と話す。

更に、執行停止案件については、預貯金や不動産等の有無を確認し、処分できる財産がなければ捜索を行って、それでも何もなければ停止にする。時効で落とすのではな



講演、事例発表に聞き入る出席者

くて、法律上ある停止処分を頭に入れながら仕事をする。そしてその仕事は何かというと財産調査であり、財産がなければ停止処分にし、財産があれば差し押さえるということだと述べ、差し押さえるべき財産が机上でも見つからない場合は、捜索を随時行うという行動こそが大事で、窓口で座って持つてくるのを待っているのではないと話す。

そして最後に「法律どおりやっていけば徴収率は上がる。やればやるほど数字で表れてくるので、果敢に徴収という仕事に法律どおりチャレンジして欲しい。そして、組織でやると必ず徴収率は上がると信じている」とまとめた。

垂水市と徳之島町の 取り組み

引き続き行われた事例発表では、「垂水市の取組について」国保税
収納率向上アドバイザー支援事業
を受けて」と題し、垂水市税務課
管理収納係の前田康晴主事が「支
援事業において堀氏の講演を聞い
た時、法律どおり仕事をしていな
かったと気付かされた」と発表し
た。(左欄参照)

続いて「やればできる!」と題
し、徳之島町収納対策課の米山良
太郎主査が「タイヤロック、家宅捜
索を行うことで納税意識が高まり
徴収率アップにつながる。そして滞
納者の真の生活状況を知ることが
できる」と発表した。(左欄参照)

発表後出席者からは「先進地視
察でどのようなことを学んだのか」
「一度差し押さえを執行したら完
納するまで解除できないというこ
とが前提になると思うが、タイヤ
ロックを執行する場合の目安を教
えてほしい」など多くの質問が寄
せられた。

質問に対し発表した前田主事
は「捜索の雰囲気に係内全員で共
有する必要があると思った。捜索
は財産調査の一部という位置づけ
で着手するのも一つかと思った」と
述べ、米山主査は「タイヤロックの
目安はないが、換価価値があるか、
ローンが残っていないかを調査し
て行っている」と答えた。助言者の
堀氏は質問に対し、「基準を作る必
要はない。話し合いに応じず、納税



事例発表の内容を詳しく聞くために質問する出席者。多くの
質問が寄せられた



事例発表に対し、助言を述べる堀氏

相談に来ない人たちに来てもらい話し合いに応じてもらうためにやること。もし、仕事で車を使っている人がいれば、差し押さえたまま使用許可を出せばいい。金額の多寡で押さえるのではなく、あるものから押さえる」と考えを述べた。

2つの事例発表に対し堀氏は、垂水市と徳之島町に2回ずつ訪問し、すぐ行動に移したことは素晴らしいと感じたと述べ、鹿児島県全体が搜索をやっているという状況を作れば鹿児島が徴収率1位になる。そして、鹿児島県から徴収の旋風を起こして欲しいとまとめた。

やればできる!

徳之島町収納対策課
主査 米山良太郎



私は、平成24年4月に収納対策課に異動となり最初の1年目は徴収や差し押さえを行うことが嫌でしたが、タイヤロック、預金差し押さえ、家宅搜索まで行うようになりました。

徳之島町役場では正面玄関入口に1月よりタイヤロックのディスプレイを置き、正面玄関に置いてからは納税意識が強くなったと感じられます。

現在、収納対策課は8人で頑張っており、徳之島町の町税及び国保税を含む滞納状況は人口11,618人に対し、滞納者数1,017人となっています。

徴収率は平成23年度89.57%、平成24年度は89.36%、平成25年度は94%を目標にしています。

平成26年1月21日に今回の事業で徳之島町初めてのタイヤロックを行いました。今回の案件では、タイヤロックをして数時間後には全額納付され解除いたしました。この案件は同級生でした。

また、同日にもう1件タイヤロックを行いました。この車は、車検切れだったため本人から鍵を借り、ハンドルにロックをかけました。この案件は、先日の年金支給日に全額納付されましたので解除いたしました。そしてこの方は、年金支給日に納付する際、近所の滞納者も一緒に連れてきたので分納誓約をとりつけました。

次に家宅搜索についてですが、筆筒の中から隅々まで搜索をして、換価価値のある動産を探します。初めての搜索では、本場大島紬1反と切手などを押収してきました。翌月には、官公庁yahooオークションに出品して既に換価済みです。今月初めにも搜索を行っています。

別の案件の搜索では、差し押さえ予告書を平成23年に送付し、その年に1回だけ納付がされ、それ以降全く納付がない案件でした。今回は、未使用のティーカップセットやレザーソファなどを押収し、今月のオークションには13点出品し、残りは後日公売会を実施して処分予定です。

このようにタイヤロック、家宅搜索を行うことで納税意識が高まり徴収率アップにつながると思います。また、滞納者の真の生活状況を知ることができます。この中にも自分と同じように徴収や差し押さえが嫌だと思っている方がいるかと思っています。しかし、今回の研修会をきっかけに頑張っていきたいでしょう。



垂水市の取組について

～国保税収納率向上アドバイザー
支援事業を受けて～

垂水市税務課管理収納係
主事 前田康晴



垂水市は、平成24年度市町村税徴収率は43市町村中36位、徴収確保対策団体の常連となっており、実績として平成23年度が現年度97.2%、滞納繰越分が18.6%、平成24年度が現年度97.6%、滞納繰越分が15.7%となっている。

今回、徴収確保対策団体からの脱却のため国民健康保険料(料)収納率向上アドバイザー派遣支援事業に手を挙げた。

平成25年7月31日に堀博晴氏の講演を拝聴し、それまでは、私としては分納管理、電話催告といった仕事をしっかりしてきたつもりではあったが、講演を聞いたときは、と。仕事をしていたことが気付かされた。

そしてはじめに取り組んだことは職場の雰囲気を変え、税務課窓口には滞納は許しませんといったポスターを張り、タイヤロックをディスプレイするなどして滞納者に対しプレッシャーを感じるような窓口にした。

また、事業導入後は①「集金吏員」「集金職員」から「徴税吏員」「徴収職員」へ転換し、②窓口での延滞金の徴収、③財産調査の徹底を図り財産が見つかったら、即差し押さえを実行、④時効管理の徹底、時効を出すのは徴収吏員の恥と自分に言い聞かせ業務を行い、現在は高額案件から処理をしている。

この講演後、搜索実施に向けて長崎県平戸市へ搜索を含めた滞納処分のあり方を学ぶため、課長をはじめ5人で先進地視察に行った。そして視察の1カ月後に搜索の日程を決め、4つの案件を平成25年12月20日に講師の堀氏とともに搜索した。

最初の案件は、私を含め歴任した職員が小額納付を受け入れていた高額滞納者であった。実際に搜索に入ってわかった事実が消費者金融への返済があり税金が後回しになっていたということだった。窓口に来られた際にどうして後回しにしているのか深く理由を聞いていればと反省し、日頃の納税折衝の在り方、重要性について身をもって実感した瞬間だった。

そして、本人名義の分の取引履歴を消費者金融に請求し、また不動産の差し押さえと初めての軽自動車へのタイヤロックを実施した。

その後、過払い金があると思われた為、法テラスを紹介した。今年の目標は、財産調査・債権差し押さえの徹底、継続的な搜索の実施、合同公売会・研修会への積極的な参加を掲げており、その中でも視察研修は複数人で参加し同じ気持ちで帰ってくるのが大事なことだと思っている。

私たちの業務は、徴収率を上げるのではなく、法律どおり仕事をして税の公平性を保つことが一番の目的だと思う。やればやるほど数字は付いてくるとあってこれからもやっていきたい。

「人が宝」のまち、枕崎 脳卒中死亡率県下ワースト1からの脱却を目指して

枕崎市健康課健康促進係 保健師

浜田 真実

塩分0.8g・野菜100g
の本当に旨いみそ汁

わが市が誇る「かつお節」は友好都市である北海道稚内市の「利尻昆布」と、今年2月「縁結びのまち」出雲市において晴れて婚礼をあげたばかり（これまでは事実婚だったのだから）。枕崎産かつお節の素晴らしさを広く知ってもらうには、まずは地元から、ということでは、食生活改善推進員と地元水産加工組合の皆さんにご協力いただき、特定健診の結果報告会にて「塩分0.8gの本当に旨いみそ汁試食会」を実施した。水産加工組合さんより「本当に旨いだしの取り方」をこ



本枯れ節とたっぷり野菜の「塩分0.8gの本当に旨いみそ汁」。このみそ汁にごはんと卵焼き風ごはんにした場合、(枕崎市民の平均的)昼食の50%の塩分カット効果が見込まれる

教授いただき、提供していただいた最高級「枕崎産本枯れ節」を使用した塩分かなり控えめ・地元の季節野菜をふんだんに入れた具たくさんみそ汁。その実力は、このみそ汁にごはんと例えば卵焼き一品あれば栄養バランスのとれた立派な朝

(昼)ごはんになる！というすぐれもの。脳卒中死亡率ワースト1の称号からも容易に想像できるとおり、市民の塩分摂取量は全国平均よりも高いと推測される。地域の特性上消費量の多い「シオチケ(魚のひもの)」と「チケモン(漬物)」はその代表格。このみそ汁のしつかりと奥行きのある味わいは「シオチケ」を、そしてたっぷりの野菜は「チケモン」を食べなくても大丈夫！と思わせてくれる。健康のためには少々おいしくなくても我慢することが必要だ！という切ない思いを払拭し極上の至福感さえ与えてくれるのだ。

試食会参加者の反応は「かつお節



本気三人衆のダイエット・コンテストの初回計測会の事業風景。ダイエット・エクササイズしながらダイエットを誓う参加者の皆さん

のみそ汁おいしい！いい味！」と、かつお節に住んでるんだから、ほんだしじゃなくてもかつお節を使わないとね。」という声が多数寄せられた。また、がん検診等で公民館まわりをしていると「あん時のみそ汁は、うんまがつたうあれから家でも作ってるよ。」と満面の笑みで近況報告してくれる男性。確かな手ごたえを体感する瞬間である。

本気三人衆の

ダイエット・コンテスト

市長自身の闘病経験から、楽しみながらできるユニークな健康づくりを広めたいと庁内プロジェクトチームが結成された。若手メン



ダイエット・コンテストの参加特典。「やせるだけじゃダメなの。美しくなるメイク教室」。プロによる本格的指導に真剣に聞き入ります。きれいな化粧と、言わせてみせるわ、あの人に。

バーで構成されるチームから発案されたのは、「ダイエット・コンテスト」。

通常ダイエット・コンテストといえば美容業界や瘦身サプリア業界主催が主流。行政主導のダイエット・コンテストは全国でも珍しく、しかも3人1組は前例がない(らしい)。体重部門と体脂肪率部門があり、エントリ部門は参加者が選択できる。ルールは至ってシンプルでコンテスト期間内の3人の体重(体脂肪率)の減少率を競うというもの。ダイエットはあくまで個人の取り組みだが、仲間がいることでお互いに励ましあい挫折・中断できないことが狙い。取組期間の短いダイエットの致命傷はリバウンド。それを回避するためコンテスト期間を8カ月と長くし最終審査会をダイエットの鬼門といえる冬季に設定することで、度重なる甘い誘



ダイエット・コンテストのランチ試食会。おいしい!ヘルシー!500kcal・塩分3gのタニタ食堂の大人気メニューを試食中♪

惑を撃退し期間限定でない本気の取り組みをしたチームしか勝てないサイババルゲームとなるのだ。

この事業の特徴として、参加特典の教室が充実していることが挙げられる。これまでの経験上、多少の検査値異常ぐらいいは本人にとつて痛くもかゆくもなく、長期に渡りモチベーションを維持することは容易いことではない。そこで「やるだけじゃダメなの!女子限定美しくなるメイク教室」や「美肌教室」など専門家講師による女子力向上をうたった教室を開催したところ毎回満員御礼であった。「タニタ食堂大人気メニューのランチ試食会」「自分でつくるダイエット」2番やせる?労働ダイエット「プチ農業体験」も人気特典教室のひとつだ。

最初見ず知らずの参加者同士だが、教室や計測会で会うたびダイエット情報を交換したりすること

がお互いよい刺激になるのだという。昨年の事業終了時のアンケートでは、「自分の健康に気を付けるようになった」「健康情報に敏感になった」という回答が多数あった。興味で始めたダイエットから万年ダイエットターへの変身、これこそ本事業の目指すところである。

中には、「先生、私ダイエットしてもう一度恋するわ!」と宣言してくる60代女性参加者(既婚)や、ダイエット開始当初3ケタあった体重から小学生1人分ほどの減量に成功すると、それまで内服していた薬が不要になり、ダイエットの成功体験から自信をつけフルタイムの仕事に就労できた青年がいたり。ダイエットを通して人生がドラマティックに変わるケースもしばしば目撃している。

楽しんで出来る健康づくりの普及

これらの健康づくり事業を実施する中で、①人口のハードルは低ければ低いほどいい②楽しい!(または旨い!)のは絶対条件③参加者同士の交流があること、そして継続するためには④「自分は変わった!」と自身が変化を実感できること、が重要だと感じる。け

れど事業は行政だけでは実施できない。参加者として楽しんでくださる方、市民の皆様のためならと惜しみない協力をくださる市民スタッフの方々。そんな方々の枕崎愛でこれらの事業はできている。財政難でも、脳卒中死亡率が高くても、「人が宝」の町、枕崎。もつともっと「楽しんで出来る健康づくり」を普及したい。そうすることが唯一の恩返しかな、と思いい業務に励む日々である。



介護予防事業簡単筋トレ教室での1コマ(筆者)

枕崎市メモ

単純な死亡原因別年間集計でわが市の1位は全国と同じ悪性新生物。しかし統計のマジックにかかる脳卒中標準化死亡比県下ワースト1位(男性173.1、女性145.0【平成19-23年】鹿児島県健康増進課作成資料より)というあまりというか、全くもって名誉とは言えない称号をいただき続けている。この称号から脱却するための本市の取り組みを紹介したい。



日置市

地域に足を運び 達成した61.5%の受診率

特定健診の受診率が大きく伸びた日置市。健康保険課だけではなく総勢約850人が一体となって市民の健康（健診）に対する関心を高めることにつなげた取り組みを健康保険課の成田郷係長に紹介していただきました。

日置市の現状を把握

本市では、平成20年度分前期高齢者交付金の精算により、平成22年度で2億円余りの基金を取り崩し、それが引き金となり、平均14.8%増の税率改定で1億円、一般会計から1億円の法定外繰入を行うことになりました。さらに、一人あたり医療費ワースト10の常連という背景から医療費分析に足を向かわせました。

早速講師を招き、学んだ手法に基づき医療費分析を行いました。生活習慣病が重症化した方の中で健診未受診者が87.7%もあり、改めて健診の重要性が浮き彫りになりました。その上、特定健診の受診率いかに後期高齢者支援



日置市の取り組みを紹介いただいた健康保険課の成田係長

金が加算減算される問題もあり、受診率向上対策は待ったなしの状況でした。

一方、日置市の特定健診の受診率は、平成20年度の12.5%（県内最下位）、年々微増し平成23年度で29.4%（県内38位）という状況でした。

受診率向上対策会議を開催

本庁を含む4支所の関係職員35人が勤務時間外に集まり、向上対策について協議を行い、次の取り組みを行うことになりました。

- 1 受診料の無料化（市長判断）
- 2 受診券を対象者全員に送付
- 3 個別健診受託医療機関を訪問
- 4 懸垂幕、横断幕、のぼり旗による啓発

5 受診特典としてのクーポン券事業

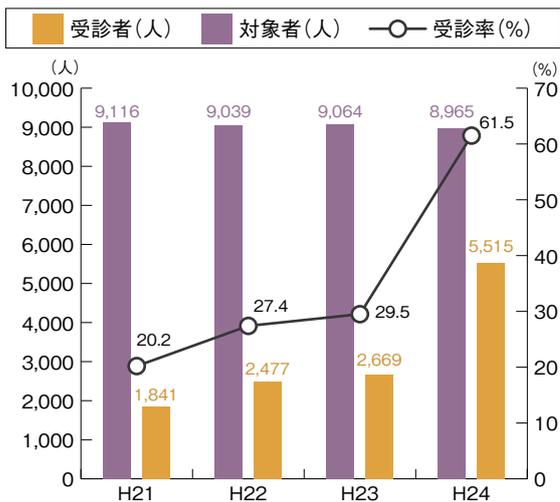
6 三者による戸別受診勧奨活動
この中で受診率向上への貢献が大きかった2項目について触れたいと思います。

個別健診受託医療機関を訪問

それまでは、医療機関で治療中の方は情報提供に頼る以外にない状況でした。そこで、市医師会の理事会に出向き、医療費分析の結果等を説明し、治療中の方の特定健診の推進にご理解をいただきました。これを受け市内全26医療機関を訪問し、患者に対する受診を勧める声かけをお願いしました。結果、個別健診の受診者が200人前後から2000人を超える受診につながり、約20%の受診率アップになりました。

三者（行政嘱託員、保健推進員、職員）による未受診者の戸別受診勧奨活動

さらに13.5%の上積みにつながった三者による未受診者の戸別受診勧奨活動は、反対意見もありましたが、3年間限定の取り組みとすること、厳しさを増す国保財政や



右肩上がりの医療費の現状、後期高齢者支援金の加算問題等をご理解いただき実施にこぎ着けました。

実施に向けまず活動マニュアルを作成し、三者へはあらかじめ説明会を行いました。職員は受診勧奨の対象者数に応じ割り振り、2人1組で訪問することとし、対象者一人ずつ個別票を作成してもらいました。原則1回は訪問を行い、不在の場合は3回まで電話連絡するようお願いし、対象者への確認事項は所管課以外の職員も携わることから、簡易な質問にとどめました。

(1) 健診を受ける意思の有無、(2) 受けない理由

行政嘱託員や保健推進員、職員のご理解、協力をいただき、総勢約850人体制で事業を展開し、担当

課だけでは到底成し得なかつた結果につなげることができました。

なお、受診勧奨対象者名簿の提供情報は必要最低限にとどめ、勧奨終了後の名簿回収を徹底しました。平成25年度は2年目でしたが、トラブル等の発生もなく活動が終了しています。

結果、医療機関の協力と戸別受診勧奨の効果もあり、平成24年度の特定健診受診率は、61.5%の驚くほどの率に到達することができました。

健康づくり推進条例を制定

本市では市民、地域、団体等の役割と行政の責務を明確にした健康づくり推進条例を平成24年10月に制定しました。

平成25年度では家族で健康づくりを話題にしておうちと子ども達を中心に健康標語を募集し、850作品の応募作品中、優秀作品を看板にして各地域に立て、啓発に役立てています。あわせて国保連合会の健康増進月間作文標語募集にも応募し、標語の部で2年連続知事賞を受賞しています。

推進の基本は足を運ぶこと

平成23年度に行なった国保税率

改定に係る住民説明会では、43会場で350人余りの参加しか得られなかつた経緯から、受診率の低い自治会の総会に伺い、計53団体3500人余りの方に健診への理解を深めていただきました。

また、大幅な受診率アップにつながった26医療機関への訪問や、戸別受診勧奨も足を運んで稼いだものでした。

いくら広報誌等を配布しても、受診率の向上につながりにくいのが共通の悩みではないでしょうか。このように職員を始め自らが汗をかき、地域に足を運んだことが市民の健康(健診)に対する関心を高めることにつながりました。

課題はマンパワーの充実と支援者のスキルアップ

より健康で高齢期を迎えていただくために重要な働き盛り世代の受診者の増加、特定保健指導の実施率の増加が重要です。

今後はマンパワーの充実と支援者のスキルアップが課題と言えます。

幸いにして本市は多くの国保加入者の健診データを持ち得ました。この貴重なデータをいかし、医療費適正化に向けた取り組みを進めて行きたいと思えます。